

要求水準 1

施設及び設備の維持管理を適切に行い、安全かつ快適な利用環境を提供する

評価項目

- (1) 施設及び設備の保守点検等を適切に行うとともに、安全管理を適切に行い、故障や事故のない運営を行う。
- ・点検、修繕の実績
 - ・業務委託の状況
- (2) 災害発生時における利用者の避難その他の応急対策、及び津波避難ビルとして一時的に避難者を受け入れることについてあらかじめ検討し、必要な対策を講じる。
- ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策
 - ・マニュアルの作成
 - ・職員研修

状況説明

- ・施設および設備の保守点検等は、法定点検回数を遵守し適切に行った。
- ・利用者の怪我等発生しないよう適宜館内を巡回し管理した。
- ・年2回の避難誘導訓練を行い、消防計画に沿った避難誘導をした後、訓練後の反省点、改善点などを全員に周知および理解を図った。
- ・地震時の津波避難ビルに加えて、風水害時の一時避難所ともなったため、台風接近時や暴風雨警報時の連絡態勢を全スタッフで再確認し、高知市地域防災推進課とも有事の際の行動確認を行った。

評価案	理由
B	適切な施設及び設備の維持管理を行い、安全かつ快適な利用環境の提供に努めていることが認められる。

要求水準 2

利用者の満足度を高める運営により、施設利用の促進を図る

評価項目

- (1) 文化団体等が自ら行う音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の公演・発表や練習の場として、またその他の文化活動の日常の活動拠点として利用しやすい運営を行い、県民の芸術文化活動の拠点施設としての利用を促進する。
- (2) 民間興行による公演、各種団体の会議その他の催し物の用に供する施設として、主催者が希望する施設の利用形態に応じて、利用しやすい環境とサービスを提供することにより、施設利用率の向上に努める。
- (3) 利用者のニーズや評価等に関する調査・分析を行い、その結果を生かして、施設の機能強化やサービス改善に努める。

状況説明

- ・定期的に行われる公演や発表会等の芸術文化活動の場として、継続的な利用がされた。
- ・セキュリティ上パソコンをネット回線に繋げていないスタッフが電話をとった場合に備えて、Wifi 接続タブレットを2台購入し、全てのスタッフが問い合わせを受けても即座に回答できる態勢をとっている。
- ・大型車両を何台も要する公演が両ホール同時に入ることも度々あるが、荷下ろし時間調整などノウハウにより混乱なく運営できている。
- ・28年度末に新しい予約受付システムが導入され、システムから発行される見積書、請求書等の帳票類は、利用料金の納入状況・残金などお客様に確認しやすいレイアウトに変更した。
- ・施設の貸出業務では、主催者側の各種要望に対して、受け入れ不可能な要望についても、代案を提案するなど、臨機応変で不快感を与えない接客を心掛けた。
- ・県外から初めて多目的室を利用する方々に調査すると「ホームページを見て」の回答がやはり多く、検索エンジンの上位表示につながるキーワードをさらに仕込んだ。
- ・来場者に対し記入用鉛筆を添えてアンケート調査を行い、公演情報収集先、来場手段、料金設定、来場動機、スタッフ態度、公演希望ジャンルなどを調査分析した。
- ・アンケートを分析した結果、情報収集ツールとして親子連れはテレビ、高齢者は新聞と今年度も顕著に違いが表れた。今後もこのデータをもとに、公演内容に合わせたターゲットにしぼることで、より効果的な告知展開が可能となり、「公演見逃し」を減らしていきたい。

評価案	理由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の文化芸術の拠点施設として、利用者の立場に立ち、快適な環境とサービスを努めるとともに、利用促進のための情報発信等を行うなど利用向上に努めていることが認められる。 ・来場者、来館者に分けてアンケートを行い、調査結果を更なるサービス改善などに生かすことに努めていることが認められる。

要求水準 3

質の高い芸術文化公演の企画・実施により、県民に優れた芸術鑑賞の機会を提供する

評価項目

- (1) 地域の芸術文化の広域拠点施設として、大ホール及び小ホールそれぞれの規模にふさわしい音楽や舞台芸術などの公演を自主的に企画し、実施する。
- (2) 県民の多種多様な鑑賞ニーズに応えるため、幅広いジャンルから上質な作品をバランスよく上演する。

状況説明

高知県の芸術文化の拠点施設として、大小ホールそれぞれの規模・構造に見合った公演を企画し、老若男女・親子連れなど幅広い年代のニーズに応える質の高い芸術鑑賞の機会を提供した。

自主事業の本数は、事業計画書より5本増の21本。入場者数は21本合計で18,720人と事業計画書の目標人数11,100人に対し169%となり、前年比でも6,720人増となった。

<自主事業>

- ・能舞音楽劇:「義経記」(大ホール)(450人)
- ・演劇:「ウルトラマン プレシャスステージ」(大ホール)(1,900人)
「ヨーロッパ企画第35回公演『来てけつかるべき新世界』」(小ホール)(450人)
- ・器楽:「音楽の絵本 親子のためのクラシックコンサート」(大ホール)(950人)
「須川展也 with サックス・バンド」(小ホール)(400人)
「ソノス・ハンドベル・アンサンブル」(大ホール)(500人)
「吉川よしひろ ひとりチェロリサイタル」(小ホール)(120人)
「第40回高知県新人演奏会出演者による～特別公演～」(小ホール)(300人)
- ・軽音楽:「リチャード・クレイダーマン 2016 コンサート」(大ホール)(950人)
「Char デビュー40周年記念コンサート」(大ホール)(750人)
「にほんごであそぼ 元気コンサート」(大・小ホール)(4,000人)
「岩崎宏美 with 国府弘子 ピアノ・ソングス」(大ホール)(800人)
- ・器楽吹奏楽声楽:「第40回高知県新人演奏会」(小ホール)(150人)
- ・映画:「シネマ歌舞伎 天守物語」(小ホール)(1,000人)
「台湾映画 KANO 1931 海の向こうの甲子園」(小ホール)(200人)
「県民が選ぶ映画ベストテン 上映会」(小ホール)(1,100人)
- ・ミュージカル:「お遍路さんどうぞ」(大ホール)(1,200人)
- ・オペラ:「セビリアの理髪師」(大ホール)(1,200人)
「よさこい節」(大ホール)(1,200人)
- ・影絵劇:「ゲゲゲの鬼太郎」(大ホール)(600人)
- ・狂言:「花形狂言 HANAGATA 冬の大ツアー」(小ホール)(500人)
- ・オーケストラ:「高知ジュニアオーケストラ 第5回定期演奏会」(小ホール)(400人)

評価案	理由
A	大小ホールそれぞれの規模にふさわしい質の高い芸術文化公演が企画・実施され、また、アンケート分析による年代のニーズに見合う告知展開を行うことにより、県民に優れた芸術の鑑賞機会を数多く提供したと認められる。

要求水準 4

地域の創造力の向上に向けて、芸術文化を担う人材を育成する

評価項目

- (1) 自主企画により上演される作品等をテーマや素材にして、芸術文化への関心を高め、理解を深めていく事業を行い、芸術文化振興の担い手となる観客を育成するよう努める。
- (2) 学校その他の教育機関で、音楽、舞踊、演劇、伝統芸能、演芸その他の芸術及び芸能の実演又は舞台設備、舞台音響、舞台照明等の効果的な運用操作などの舞台芸術に関する活動を行っている児童生徒を対象に、講習会の開催や発表機会の提供等を行い、次代の芸術文化を担う人材を育成するよう努める。
- (3) 指定管理者の自主事業として運営されているジュニアオーケストラの活動を継続し、芸術文化を通して青少年の健全育成を図るとともに、育成のための支援体制を充実させることにより、オーケストラとしてのレベルアップに努める。

状況説明

- ・妖怪影絵劇をテーマ素材にした子供向けワークショップを2回開催した。作品は、10月本番日の会場ロビーに展示。自分の作ったものが公の場に飾られている光景を目の当たりにすることで、芸術創作意欲が高まることを期待している。
- ・高知出身の島本須美さんを招き、シンガーソングライター・もりたかしさんらを交えて、「絵本の読み聞かせ会」を開催。当日は乳幼児や未就学児の割合が多く、楽しく穏やかな空気に包まれた。
- ・イオンモール高知南コートでサクソ演奏を披露した。南コート近くには楽器店もあり、楽器を習っているとされる若者が多数集まった。音楽芸術へのモチベーション高揚につながってほしい。
- ・元ブルーハーツのドラマー梶原徹夜氏を招き、県立若草養護学校と明德義塾中学高等学校ワークショップを開催。参加者および関係者に大変喜ばれた。
- ・高知県高等学校演劇部夏季舞台技術講習を今年度も開催した。
 - *プロの劇団員による演劇表現と県民文化ホール技術職員による舞台技術の講義
 - *参加者をチーム分けし、チームごとに台本の無いエチュード形式の芝居を作り上げる
- ・ジュニアオーケストラ定演において、付属小と小高坂小合唱部との共演で行った。3年目となり、慣れてきた児童が初参加組をフォローする姿も見られた。
- ・イオンモール高知南コートでアウトリーチ演奏会を行った。「見られる側」となり、団員の意識向上につながった。
- ・新聞テレビをつかっただけのジュニアオーケストラ団員募集告知を行い、11人の応募があった。そのうち9人は完全なバイオリン初体験者だったが、講師も増員し初心者専用の部屋を設けることで、継続的な参加に繋がった。

評価案	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・自主事業企画において、来場者が昨年度 11,550 人から 18,720 人に増え、創作意欲やプロの演奏を聴く機会等を提供し、芸術文化振興の担い手となる観客の育成に努めたと認められる。 ・高等学校演劇部夏季舞台技術講習等により、次代の芸術文化を担う人材の育成に努めたと認められる。 ・ジュニアオーケストラの体制強化に努めるとともに、昨年度まではレベルが達していないためできていなかったアウトリーチ演奏会を行う等、青少年の健全育成とレベルアップに努めたことが認められる。 ・海外交流研修等にも積極的に応募・参加し、海外の劇場や音楽堂等の先進事例を日常業務に活かそうとする姿勢が認められる。

要求水準 5

関係機関等との連携・協力により、芸術文化の振興を図る

評価項目

- (1) 芸術文化団体が企画する県民参加型の事業や、鑑賞団体が企画する一般の観客を対象とした公演を共催で実施するなど、県民の自主的な芸術文化の振興活動と連携・協力することにより、県民の芸術文化活動への参加の促進や、県民が優れた公演等を鑑賞する機会の拡大に努める。
- (2) 学校その他の教育機関及び芸術文化教育の推進を目的とする団体等との連携・協力により、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供する。
- (3) 県内の他のホールの職員等を対象に、ホールの企画運営や舞台技術に関する実践的な知識及び技術を習得するための研修の機会や、共同開催の公演を実施することによる企画運営ノウハウの移転の機会を設けることによって、地域のホール運営の専門性向上に努める。

状況説明

・高知出身の音楽家・故下八川圭祐氏が始めた「下八川賞音楽コンクール」40年記念コンサートを開催し、宿毛市出身のソプラニスタで同コンクール参加経験もある岡本知高さんにも参加していただいた。
・県立大学の団体が上映する福島原発事故のドキュメンタリー映画会を今年度も支援した。
・日本で最もチケットの取れない落語家でもある立川志の輔さんを長年に渡って招聘し続けていたが、ついにスケジュールが取れ県民に披露できた。
・クラシックの団体であるグループが中心となって企画した故向原寛追悼演奏会を共催で支援した。

<共催事業>

- ・落語:「立川志の輔独演会」(大ホール)(1,500人)
- ・オーケストラ:「ファイナルファンタジー ブラス・デ・ブラボー 2016with シェア・ウインド・オーケストラ」(大ホール)(1,300人)
「ディズニー・オン・クラシック まほうの夜の音楽会 2016」(大ホール)(1,300人)
- ・器楽:「向原 寛先生 追悼演奏」(大ホール)(1,000人)
「下八川賞 40周年記念コンサート」(大ホール)(1,000人)
- ・ミュージカル:「ウエストサイド物語」(大ホール)(1,400人)
- ・歌舞伎:「松竹歌舞伎舞踊公演」(大ホール)(1,200人)
- ・軽音楽:「STARDUST REVUE 35th Anniversary Tour」(大ホール)(1,300人)
「踏音アーキペラゴ」(大ホール)(1,300人)
- ・映画:「シネマ・フィロソフィア 3.11 上映会」(小ホール)(300人)
- ・吹奏楽:「第12回スーパーハイスクールブラス」(大ホール)(700人)
- ・狂言「野村万作・萬斎 公演」(大ホール)(1,500人)

・オペラ「よさこい節」は、高知県民一般参加に加え、児童合唱も6歳から15歳までの11人が参加し、5カ月におよぶ稽古を頑張り抜いた。

・県内高校吹奏楽部や大学から選抜された部員が合宿形式で練習を積んで定期演奏会を行う『スーパーハイスクールブラス演奏会』は28年度も共催し、若い世代の芸術文化活動への参加を促進した。

・室戸市のホールに出向き、地元有志30人を対象に舞台技術の講習会を5日間行った。

・高知県文化施設協議会で、「高知県における文化芸術振興のビジョン」と題したアートマネジメント勉強会を行った。また高知県文化施設協議会メンバーを中心に告知し、東京芸大でも教鞭をとる岸野雄一氏を講師に招いて「地域に根差したアートマネジメント」と題したアートマネジメント講演会を開催した。

・「県民が選ぶ映画ベストテン」上映会は、28年度も土佐清水市立市民文化会館と田野町ふれあいセンターが手を挙げ、グリーンホールと合わせて県域東部・中部・西部の3会場で開催できた。

評 価 案	理 由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・共済事業は昨年と同数の12本で、入場者は200人弱減り13,800人となったが、都会でもチケット入手が困難なメジャー舞台を開催できるよう努めたことが認められる。 ・団体等との連携・協力により、児童生徒に対して質の高い芸術文化に触れる機会を提供したことが認められる。 ・研修を開催し、また、事業を連携して実施することで、地域のホール運営の専門性向上に努めたことが認められる。

その他

評価項目

- (1) 社会的責任
- ・法令等の遵守
 - ・個人情報
 - ・情報公開の状況

状況説明

- ・条例や内規等に基づく運営管理業務を行い、『同じ事例には同じ対応』を心掛けた。
- ・運営管理を始めて2年がたち、平等でぶれることの無い判断基準が確立できてきた。
- ・個人情報保護に関しては、平成26年4月1日から、利用者の個人情報を扱う受付管理システムをインターネット環境から遮断したほか、来場のお客様の事務所内入場可能区域も受付カウンターまでとし、事務所が開いている間は必ずスタッフが駐在することで書類等を守っている。
- ・事業部門のパソコンはネット環境にあるが、ウィルス感染対策として本社から管理されたUSBメモリー以外接続できない設定とした。

評価案	理由
B	適切な管理運営がされたと認められる。

評価項目
 (2) 利用実績
 利用実績の状況: 利用状況の分析

状況説明

区分		26年度	27年度	28年度	前年度比
オレンジホール (大ホール)	開館日数	341日	314日	340日	26 H27は吊物更新工事に伴う閉館があった
	利用日数	226日	225日	246日	21
	利用率	66.3%	71.7%	72.4%	0.4
	利用件数	166件	165件	193件	28
	入場者数	191,320人	182,090人	206,250人	24,160
グリーンホール (小ホール)	開館日数	342日	325日	334日	19 H27は吊物更新工事に伴う閉館があった
	利用日数	228日	235日	245日	10
	利用率	66.7%	72.3%	73.4%	1.1
	利用件数	206件	208件	203件	△5
	入場者数	49,393人	48,440人	54,740人	6,300
多目的室	延べ開館日数	3,949日	3,960日	3,949日	△11
	延べ利用日数	1,951日	2,278日	2,443日	165
	延べ利用率	49.4%	57.5%	61.9%	4.4
	利用人数	71,533人	81,778人	85,162人	3,384

評価案	理由
A	全体的に利用が増え、多目的室に関しては利用促進の取り組みの成果により、県外主催者の利用もあり、適正な管理運営がされたと認められる。

評価項目**(3) 収支の状況**

経営努力:収入増加の取り組み・経費削減の取り組み

状況説明

- ・収入の合計は1億3千万円を超え前年比106%となり、自主財源率も56%と過去3年間最高の数字となった。
- ・自主文化事業の追加開催および告知のメディア展開などから鑑賞事業の入場料収入が約2400万円となった。
- ・予算を上回った収入を原資に、新たな自主事業を実施した。

評価案	理由
A	多目的室の活用促進等の経営努力を行い、予算を上回った収入を原資に新たな自主事業を実施するなど、適正な管理運営がされたと認められる。

総合評価

評価案	理由
A	<ul style="list-style-type: none"> ・県民の芸術文化活動の拠点施設として、利用者の立場に立ったサービスの提供に努め、その利用を促進した。 ・幅広いジャンルの自主事業を行い、自主事業の入場者数は目標に対し約169%、前年度比では162%の実績であった。 ・児童生徒に対してワークショップを行い、質の高い芸術文化に触れる機会を提供した。 ・収入の合計は前年度比約106%、前々年度比約115%となった。 ・多目的室の使用料収入が、前年度比106%となった。 上記により、要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされたと認められる。

評価基準

- 「A」 要求水準を上回る成果があり、優れた管理運営・事業の遂行がされた。
- 「B」 概ね要求水準どおりであり、適正な管理運営・事業の遂行がされた。
- 「C」 要求水準に達しない面があり、改善のための工夫や努力が必要。
- 「D」 管理運営・事業の遂行が適正に行われたとはいえず、大いに改善を要する。